

第 66 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 29 年 8 月 28 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 COM 倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 6 名
- 出席委員 6 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、須貝昭子、桑田政美、
高谷和彦、神垣美代香、中川弘佳
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
野間 耕平 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 歌ってきょうも元気!
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回お聞きいただいたのは、新番組「歌ってきょうも元気！」です。

月～金曜の毎朝（毎夕）、懐かしい歌を1曲放送し、ラジオの前で声を出して歌いましょうと呼びかける、いわば歌のラジオ体操的な番組。ウォーミングアップとして発声練習を入れ、歌に繋げています。箕面で活動するさまざまなコーラスグループのみなさんが、月替わりで歌を担当します。

箕面市の高齢化率の上昇は、全国平均より早く進むことが予想されており、特に75歳以上の後期高齢者が増加する傾向にあります。超高齢社会では、一人暮らしが急増し、声を出す機会が減ることが予想されます。「声を出す」ことは、全身の血液の循環を良くするだけでなく、心身共に活力がわき、気持ちも明るく、前向きに考えることができるようになります。

そこで、タッキー816 応援団が企画委員会を結成し、ラジオを通じて声を出す機会を作り、一緒に歌うことで心身の健康を維持しようという番組の企画に一昨年から取り組み始めました。市内の合唱グループにも呼びかけ、10団体（300人）以上が番組作りに参加しています。

歌の収録も、PA経験がある有償ボランティアが担当しており、4月にはテストケースとして稲ふれあいセンターでプレ公開ライブを実施し、収録した音の状況や選曲、番組の構成などを企画会議で協議を重ね、8月のスタートとなりました。

番組は、1日1回は声を出すこと、年3～4回実施予定の公開ライブに出かけてもらうことを目標にしています。1回目の公開ライブは10月10日（火）に稲ふれあいセンターで開催します。

番組情報を掲載した情報紙やちらしは、各合唱グループのほか、全166人の民生委員・児童委員、市内の包括支援センターなどに配布し、今後、9～10月に各小学校区で開催される敬老会での配布を依頼していきます。

なお、番組制作について「平成29年度夢の実支援金発展応援！コース」で申請額が満額交付されました。また、8月15日現在で、4企業と1NPO団体から協賛金をいただいています。今後も、番組継続のために、協賛社・団体を増やしていきます。

番組制作は、タッキー816 応援団が主に動き、タッキー816 は企画委員会に参加し、局としての考え方を伝え、方向性をすり合わせてきました。収録の立ち合いや番組のアナウンスと編集をタッキー816 パーソナリティがつとめています。

今後も、超高齢社会の課題解決をふまえ、声を出して一緒に歌ってもらうための仕掛けを試しながら、市民のみなさんと協働で番組作りを進めます。

(2) 審 議

委員A：この番組は、みのお市民活動センターの今年度の支援金に申請し、満額交付を受けた事業。

高齢化社会を迎えるに当たって、箕面市内でも家にひきこもって外出しない独居のかたが多くなっているが、なかなか接点がなく、必要な情報を伝えられていない中、こういった番組作りを通して1人で家のなかにこもっているかたでも「声を出す」、人と接することが難しくても、ラジオからの音楽を聞いて歌を歌う第一歩になるということを非常に高く審査の中でも評価された。

期待も大きいので、歌ってほしいかたに1人でも多く届けられるように、自治会や各市民団体などへの工夫をしてほしい。

番組の感想は、選曲も、元気な歌から、一緒に歌うにはゆっくりとしたテンポのものもあったので、全体的に聞き慣れた歌を歌えるような形にできているのと、同じ歌でも団体によって耳から伝わる特徴があり、また、知っているあの人歌っているのが聞こえると親近感の湧く番組作りになっているのではないかと思います。ずっと耳に入ってくる番組になっていると思います。

委員B：多くのかたが尽力して始まり、番組開始から毎朝聞いているが、何か足りない。団体名もちらしなどに出ていて、発声練習もあるが、歌詞が分からない歌があり、歌えない。

例えば、歌詞を歌う前に1番だけでもアナウンスして、聴取者に書き留めてもらってから歌に入れなにか。

また、発声に続いて歌のあとに協賛社名が入ってもう一回歌で終わり、という構成だが、団体のかたのコメント、例えばなぜこの曲を選んだかなど

のトークが入れば少しやわらいで、発声と歌だけの物足りなさが解消され、もっと良い番組になるのではないか。NHK のラジオ体操のように、自然に高齢者に馴染んでもらえる番組になってほしい。

委員長：音楽自体は聞き慣れているが、歌詞が出てこない歌がある。確かに1 番だけでも分かるのりやすい。

歌のラジオ体操として主旨はとてもいいが、いざ参加するには歌詞が分からなければ参加できない。5 分番組を10 分番組にして歌詞を入れることはできないのか。

事務局：歌詞が分からないという課題はあがっている。メロディはみなさん体で覚えていらっしゃるかたが多いので、9 月の放送からは「歌詞が分からなくてもラララで歌ってください」というコメントを入れることにしている。

委員C：私の年代、40 代でも耳なじみのある音楽もあるので、歌うというよりは、自然と鼻歌で奏でる感じだった。

歌詞が少しでも分かればいいなというのと、歌だけという印象が強かったので、ライブ感というか、合唱するかたの合唱前後のざわざわした感じが入ると、合唱の部分だけを切り取って流すよりもいいなと思いました。私たち世代にも聞きなじみのある曲をこれからも選曲してほしい。

委員長：選曲は何を重きにおいてしているのか

事務局：一緒に歌える歌、元気が出る歌を選曲いただけるよう各グループにお願いしている。

委員D：こういう歌番組は割と難しく、本当に聴取者が聴きたい曲を絞り出すのは、年齢の対象がどの世代にもとなると番組内容がまた違ってくると思うし、歌詞云々という話が出るが、それでは5 分の番組では成り立たない。その辺でジレンマがあると思うが、優等生が選んだ曲という感じがある。反対に言えば、たいへん無難で誰が聞いてもおかしくないというようなクセのなさが感じられるプログラム選曲だと思う。

でも、個性を出すのであれば、この月はこの年代に絞って懐かしい曲をや

るのか、本当に歌いたい曲をやるのか、歌って青春時代を振り返られるような曲に絞るのか、いろいろしぼりかたがあると思う。

そういう工夫があれば番組は長続きしていくのではないかという感じを受けた。

ラジオの前でじっと聞いている人は少なく、この時間帯なら、何かしながら動きながら聞いている人が多いと思う。

そうすると、歌詞云々をこだわるよりも、自分が印象の深い部分だけを一緒に歌えるような曲がいいと思う。

委員E：コミュニティエフエムの番組づくりの良いモデル。

企画意図にもあるが、社会的背景、高齢社会、独居老人、最近では誤嚥性肺炎が増え、喉を鍛えることがとても重要で、カラオケが有効、大きな声や高い声を出すといいなど、いろいろなことが言われている。

実際にこの企画も、市民団体のタッキー816 応援団が番組企画委員会を立ち上げて、その中にタッキー816 が入って一緒になってやっている部分、それから市内の市民コーラスグループなどの協力団体、さらに音響の技術も含めてサポートをしっかりとやっていただいている。

これをきっかけにスポンサーの開拓もしている。

スポンサーへのアピールもかなりできているし、これからもっと広げることとも考えていける。

それから、いわゆる公共機関というか支援ということで夢の実支援金の助成をいただいている。

それから行政の支援として、実際に箕面市の広報や高齢福祉室へのアピールもできている。

各市内の施設へのPRもできている。図にするとすごくいいパターンになっている。

しかも5分間という中できちっとできているので、ここ最近ではよくできた番組。大事に育ててほしい。

行政が主導する「聞いてよ」型から、市民が主導する「聞こうよ。歌おうよ」型へ、この番組をきっかけに変えていくことができる。

ファンづくりの5段階を考えたときに、一番下に「番組そのものを知らない人」「タッキーも知らない人」が多くいる。

その上に「番組があるのは知っているが聴いたことがない」、その上に「1

回は聞いたことがある人」。その上にいわゆるリピーター「2回以上は聞いたことがある」、1番上に「いつも聞いているヘビーリスナー」の層。この5段階を上げていかなければならない。最終的には歌のラジオ体操だから、いつも聞いているところまでにしなければいけないが、では、次どういうアクションを起こすのか。

どのようにしてまず番組を知らない人に知ってもらおうか。次、どのようにして聞いてもらうか。聞いたことがない人に。1回聞いた人をどのようにして2回以上聞いてもらうようにしていくか。

数回聞いたことがある人に、どのように毎日聞いてもらうようにしていくか。ファンにしていくか。1つ1つアクションとしてやっていかなければならない。

そのために、スポンサー含めて、段階的にやっていくことが必要。応援団ができること、タッキーができることと、他の人にも広げて参加してやってもらえるように広げていくといいのかなと思っている。

番組そのものに関しては、曲も記憶の中にない、歌詞も聞き取りにくい、歌えない曲もあった。

選曲も難しい。聞く番組ではなく、一緒に歌う番組なので、工夫がいるが、「ながら」は一つの方法。

もう一つは事前に歌が分かっているのだったら、ホームページで1番だけでも全曲の歌詞を見る見ない別にして掲載するのも必要かなと。

ファンづくりの一番上の階層にもっていくための、何回か聴いたことがあるという層にもっていくための手段と思っている。

それと発声練習は絶対いる。あれがないといけない。つられて発声している。ぜひ看板にしてほしい。

委員長：歌が早く分かっているなら、曲名や歌詞を知らせられる方法を工夫してほしい。

在宅介護を勧められている現状の中で、ラジオを聴いている人は割といる。毎日同じ時間に始まるのがいい。声も出せる。ウォーミングアップで発声練習から入れるので自然と自分も参加して声が出しやすい。

一方的に歌が流れるのとは違う感覚がある。大声で誰憚ることなく歌えたり、元気なときは体も動かせるのでとてもいい。

それと、市内の合唱団体が歌っているということで、自分もその中に入っ

た気分になって一緒に歌える。コミュニケーションをとって歌ってるという感じになれるというのがいい。

また、市民グループが企画を立ち上げ、タッキーと一緒にやっているのは、市民だけがやっているのではなくて、これも大きなことだと考えている。

これからいろいろ広がっていく可能性がある。

また、福祉団体や高齢者施設にも案内できるので、9時に放送するので活用してくださいとか、直接スタッフが出向いて呼びかけたり、スポンサー獲得にもつなげられ、やりようによってどんどん広がりを作れる番組。

できれば5分は短いので、前後にいろいろ入れながら、やりとりも入れながら、みなさんが主体になるように進めてほしい。

委員E：テーマソングがいい。また、公開ライブという番組に関するイベントをちゃんと予定していて、そこでもっと大きく一緒に歌おうよという取り組みもいい。

単にラジオの番組だけじゃなくて、初めからそれを組み込んでいて、予告もしているのがいい。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 29 年 8 月 28 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会